

# 農福連携は、労働力確保に有効な一手段

## 農事組合法人 みやまえ営農（加古川市）



トウモロコシの補植（植え付けの手直し）作業

### 経緯

- ・加古川市西神吉宮前地区は、農家の高齢化による担い手不足が深刻化し、水田の維持・発展に支障をきたす恐れが出てきた。このため、継続的かつ安定的な農業経営の実施に向けて、平成24年1月に「農事組合法人 みやまえ営農」を設立。
- ・農福連携の取組は、平成30年から近くの福祉施設に畑を貸し出し、福祉施設の利用者へ野菜の栽培を指導したことが始まり。
- ・昨今さらに後継者不足が進んだ中、農福連携は労働力確保に有効な一手段と考え、5年前に組合長が農福連携研修会（兵庫県主催）に参加。以降、毎年組合から1名が参加し農福連携の理解を深めており、これまでに3名が同研修を受講済。

### 取組内容

- ・今年度、就労継続支援A型の福祉事業所と覚書を締結。トウモロコシの補植作業及びトウモロコシ、キャベツ畑での除草作業を委託。
- ・キャベツ畑での除草作業では、稲刈りの時期と重なる10月中旬からの10日間ほどかけて30アールの圃場で実施。繁忙期に委託することにより組合の負担が軽減。
- ・今年（令和4年）で2回目となるキャベツの収穫祭を2月中旬の土、日の2日間開催。このうち土曜日の午前中を障がい者との交流の場として、福祉事業所の利用者限定とした。車椅子で田んぼに入り、キャベツを収穫するなど、普段では体験できないことであり、大変喜ばれた。

### 今後の展望等

- ・地域住民の高齢化と会社勤務者の定年延長などの理由で、集落営農はこれからも人手不足が続く。新しい人材が加入しない限り、毎年確実に平均年齢が1歳上がる。このような情勢にある中、農福連携による労働力の確保は、これからますます重要になると考える。
- ・このため、今後も加古川市、高砂市等の近隣の施設からの受入れを検討したい。
- ・受入れ人数が増えた場合は、休憩所、トイレ等の施設を整備する必要があると感じている。